

原爆投下

広島・長崎の多数の市民が
核兵器の犠牲となった

原爆投下までの経緯

戦争指導者たちは、ポツダム宣言発表後も日ソ交渉に期待をかけるばかりで、なんら戦争終結への有効な手立てをたごろうとはしなかった。天皇も内大臣木戸幸一に、「伊勢と熱田の神器は結局自分の身近に御移して御守りするのが一番よいと思ふ」とのべ、天皇位の象徴である「三種の神器」を自らの手で守護し、信州松代の大本営への移動さえ考えていたのである。

そうしたなか、アメリカ大統領トルーマンは、ポツダム会談の終了をまって8月3日に原爆投下の作戦命令を発する。8月6日、テニアン島の基地からとびつたB29エノラ・ゲイ号が広島に原爆を投下。広島市は一瞬のうちに廃墟と化し、被爆後四か月までに九万人から一二万人の犠牲者をだすことになる。

原爆投下の事実を知らされた天皇は、これを

転機に戦争の早期終結すべきことを上奏した東郷茂徳外相に、「其の通りである。此種の武器が使用せらるる以上、戦争継続はいよいよ不可能になつたから、有利な条件を得ようとして戦争終結の時機を逸することはよくないと思ふ」とこたえている。天皇は原子爆弾の使用にふみきつたアメリカの対日強硬姿勢に脅威を感じ、戦争終結に關していそぎ結論をだすよう督促したのである。

これをうけて最高戦争指導会議は、8月9日に会議を開き、対応を協議する予定であったが、同日テニアン島の基地を発進したB29ボックス・カー号が、長崎市に二発目の原爆を投下。同市も広島市と同様に甚大な被害をうけ、六万人から七万人の市民が犠牲となった。

日本の敗北が時間の問題になってきた段階で、アメリカが原爆投下をいそいだのは、戦後流布されたようにアメリカ兵の出血を少なくしようとしたためだけではなかった。それよりも、トルーマン政権内部では、日本の敗北をアメリカ単独の軍事力で獲得し、さらに圧倒的で高度な軍事的威力（＝原爆の使用）をソ連にせしめし、日本の無条件降伏をひきだすこともと

*1 『木戸幸一日記』下巻、東京大学出版会、一九六六。

*2 広島での推定被爆人口は四二万人。後遺症で亡くなる人も多く、昭和25年までに死んだ者の数は、約二〇万人と推定される。

*3 東郷茂徳『東郷茂徳手記 時代の一面』原書房、一九八九。

*4 長崎での推定被爆人口は二七万人。昭和25年までの死者の数は、約一四万人と推定される。

*5 『朝日新聞』一九四五年8月8日付。

*6 栗屋憲太郎・川島高峰編集解説『国際検察局押収重要文書① 敗戦時全国治安情報』第7巻、日本図書センター、一九九四。

められていたのである。

その意味でいえば、原爆投下は直接には日本にむけられたものではあったが、同時にソ連への威嚇効果をねらった高度に政治的な判断として、その使用が決定されたのである。

戦意をもうちくだいた原爆投下

広島への原爆投下の事実は、トルーマンによりすばやく全世界に公表された。鈴木内閣はすぐに関係閣僚会議を開催して対応を協議。調査中を理由に、原爆投下の事実を国民にふせることにした。

大本営は広島への原爆投下の事実を、翌7日の午後3時30分に「広島市は敵B29少数機の攻撃により相当の被害を生じたり。……敵は右攻撃に新型爆弾を使用せるもの(の)如きも詳細目下調査中なり」と発表した。大本営も「新型爆弾」が原子爆弾であることを確認しながら、国民の戦意の低下をおそれて、原子爆弾使用の事実を懸命にかくそうとした。

だが、民衆は「新型爆弾」が従来の兵器とは明らかに異なる威力をもったものであることを察知し、かつその破壊の凄さを感知していたの

である。

たとえば、8月11日に福岡県知事山田俊介が内務大臣安部源基および九州地方総監戸塚九一郎に送付した「ソ連ノ対日宣戦布告並新型爆弾ニ対スル民心ノ動向ニ関スル件」には、「新型爆弾の出現は決定的な打撃だ」とか、「新型爆弾の出現により従来の防空対策は零になつた生産はがた落ちだ。之れで戦争が継続されるか」といった民衆の声が報告されている。

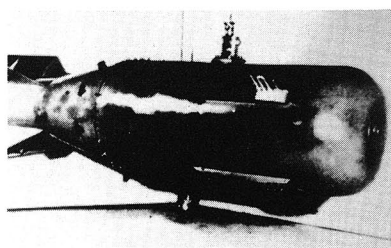
なかでも「もう駄目だ。本土決戦には敵は来らず。空襲は激化されるし敵基地覆滅の新型爆弾は先手を打たれるし」との声は、最後まで「敵撃滅」を呼号して民衆の期待をつなぎとめようとした戦争指導層への見限りをしめすものだった。

このように「新型爆弾」＝原子爆弾の投下は、民衆の戦意をうちくだし、逆に戦争指導層への不満を鬱積させることになっていく。それゆえ山田知事は結論として、「新型爆弾に対する恐怖感」は軍防衛劣勢事情と相俟つて自暴自棄的厭戦反戦的気運を醸成しつゝあり」と、きわめて悲観的な見解をのべざるをえなかつたのである。

(瀨 厚)

参考文献

西島有厚『原爆はなぜ投下されたか』青木書店、一九八五。
荒井信一『原爆投下への道』青木書店、一九八九。



広島に投下された原子爆弾、「リトルボーイ」の模型。長さ約三メートル、重さ約四トン。